拠出金名：国際ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム推進機構への拠出金

国際機関等名	国際ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム推進機構 (英文名称・略称) The International Human Frontier Science Program Organization (HFSP)				
種 別	国連(事務局)	国連(基金・計画)	国連専門機関	その他	
所管官庁担当局課名	文部科学省科学技術・学術政策局国際交流官付				
最近3年間の我が国支払額及びODA率					
単 位	邦 貨 (千 円)	外貨1 (千ドル)	外貨2 (千)	レ ー ト	ODA率(%)
平成21年度	2,025,573	19,666		1米ドル = 103円	0
平成20年度	2,222,230	19,666		1米ドル = 113円	0
平成19年度	2,281,228	19,666		1米ドル = 116円	0
当該拠出金の目的・用途等	①国際的・学際的共同研究チームに対する研究助成(研究グラント)、②若手研究者が国外で研究を行うための旅費・滞在費等の助成(フェローシップ)、③フェローシップ受賞者の母国での独立を支援するキャリア・ディベロップメント・アワード(CDA)、④国際的な研究集会開催の助成(受賞者会合)等				
拠出上位5ヶ国・地域・機関等 (2009年のもの)			国際機関等の財政 (2009年度決算)		
	国 名	金額 (千ドル)	拠出率(注1) (%)	当該年度の収入 132.5百万米ドル 当該年度の支出 128.4百万米ドル 次年度への繰越 4.1百万米ドル	
1位	日本(注2)	31,248	51.4	会計検査機関名	
2位	米国	9,743	16.0	Deloitte & Associe's	
3位	EU	4,976	8.2		
4位	ドイツ	4,428	7.3		
5位	フランス	2,865	4.7		
当該機関等に対する我が国としての評価 (合理化、機能強化のための改革が行われているか、当該機関等の政策に対する我が国の意見の反映度を含む)					
<p>本プログラムは、1987年中曽根元首相がヴェネチア・サミットで提唱した国際プロジェクトであり、学際性・国際性・若手重視の理念にもとづく、生体の持つ優れた機能の解明に寄与する基礎研究を国際的に共同して推進し、その成果を広く人類全体の利益に供するとともに、科学技術の分野で我が国が国際社会における先駆的な役割を果たすことを目的としている。</p> <p>現在までにグラント受賞者から16人のノーベル賞受賞者を輩出するなどしており、国内外で高く評価されている。また、2009年に実施された外部評価機関による評価作業においても、本プログラムから助成を受けた論文の引用度の平均は、世界平均の3倍以上である等、非常に高い結果が出ている。平成22年5月に豪州で開催されたHFSPの支援国による政府間会合では、明確な原則に基づく新たな財政フレームワークを構築するための小作業部会を早急に設置し、平成24年3月までに評議員会への提言を行うこととなった。また、日本以外の拠出金割合が今後も全体として着実に増加するよう、加盟国は拠出額を継続して増加させることが奨励された。こうした国際的な動きの中で、HFSPの我が国に与える効果について国内専門家によるHFSP国内連絡委員会等で検証を行い、日本人応募者・採択者の低下傾向も鑑み、平成23年度の当省の概算要求においては、一定の減額要求を行うこととなった。</p>					
邦人職員数 うち幹部以上	2 人 うち 1 人	当該機関全体の職員数 及び邦人職員が占める率	14 人 14.3 %		
邦人職員が占めている幹部ポスト					
ポストの名称		職 員 氏 名		備 考	
事務局次長 (評議員会会長*) *職員には該当しないが、評議員会はHFSP運営全般に責任を有する重要な組織。		中原 徹 (有馬 朗人)		文部科学省から出向 (武蔵学園長・静岡文化芸術大学理事長)	
当該機関重要ポストへの邦人職員送り込みについての具体的な計画					
引き続き邦人職員を送ることを計画中					

(注1) 我が国と各国とは会計年度が異なるため、拠出率については暦年となっている。
(注2) 日本の拠出額は文部科学省、経済産業省の拠出合計額。